

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でのいただいた御意見の概要

1 会の名称

第 39 回岩手県環境審議会

2 県側出席者

環境生活部

政策地域部政策推進室

3 開催日時

平成 30 年 10 月 22 日（月）13：30～14：40

4 主な御意見の概要

○SDG s に関すること

- ・ 論点が幸福論の方に移っていて、SDG s についてどう対応するかという県の対応表明がないので、具体的にどうするのが分からない。また、「政策プラン」（素案）には一言も出てこない。これから世界中で 15 年間に取り組むことに対して、県においてもどう取り組んでいくかを明らかにする必要があるのではないかと。

○新しい時代を切り拓くプロジェクトに関すること

- ・ プロジェクトに関しては、アクションプランは策定しないのか。また、進捗管理をどうするのかというのが見えない。「政策プラン」（素案）に入っていないので、どこで扱うのが見えない。

○「自然環境」という標題について

- ・ 「自然環境」と、一番上に標題があり、その下に循環型社会や温暖化防止があることに違和感がある。「環境」とすべきではないか。「自然環境」の中に地球温暖化がぶら下がるイメージは、県民には非常に分かりにくいし、副題で記述しないと分からないというものでは困るのではないかと。

○地球温暖化対策に関すること

- ・ 地球温暖化に関する記述において、3つの社会づくりを進めることとしているが、これらは国の第4次環境基本計画までの基本的な柱建てであって、今年度からの第5次環境基本計画ではさらに拡充し、考え方が進化している。県の総合計画には、こういった観点を入れるべきではないかと。
- ・ 地球温暖化適応策について、県の環境基本計画の中で、条件付きだが、「県としての適応施策の総合化・体系化による中長期的な適応計画の検討を進めていく必要があります」という記述がある。「政策プラン」（素案）においても、単なる情報提供だけでなく、中長期的な適応計画の検討を進めていく必要があるのではないかと。

○希少野生動植物や生物多様性に関すること

- ・ 身近に希少種がいることが強みとされているが、果たして強みなのか。追い込んでしまった結果ではないか。むしろ、そういう状況にならないようにすべきではないか。
- ・ 生物多様性についての取組が強調されているが、その基盤となる生息環境の保全が抜け落ちているのではないか。特に重要な地域の保全、例えば、早池峰国定公園の保全をきちんとするということがあって、希少種の保護というものがきた方がよいのではないか。

○廃棄物対策について

- ・ 廃棄物対策について、昨今、問題となっているプラスチックごみ対策などを、先取的に進めることもあって良いのではないか。

○環境教育について

- ・ 環境教育においては、E S Dの取組を加えていただきたい。

○医療関係について

- ・ 「政策プラン」(素案)の「家族・子育て」分野に、医療機関関係について、上を目指す内容がたくさん書かれているが、新聞に、奥州市の水沢病院では入院を止めるとことが書かれており、県民は不安に思っているのではないか。「幸福」とたくさん書かれているが、幸福とは自分や家族が健康であることだと思うが、県内の県立病院を見ると、婦人科がなかったり、小児科で入院ができなくなるなど、どんどん縮小していて、県はこのことに対してどのように考えているかということが「政策プラン」(素案)では抜けている。医師が少ないから人材を確保していかなければならないといったことはその通りだとは思いますが、今の医療機関に対する県の取組について記載していただきたい。